

現代アート・建築をきっかけに、瀬戸内の島々を本当の幸せ・豊かさが感じられる島に

ベネッセアートサイト直島 経営企画部長

公益財団法人 福武財団 広報部長

宇野 恵信

福武財団とベネッセアートサイト直島

私たち福武財団は、備讃瀬戸に浮かぶ美しい島、直島・犬島・豊島を主な活動の舞台として、文化芸術活動によって地域振興に貢献することを目的に、美術館の運営、芸術祭の共催、各種助成活動を行ってきました。「ベネッセアートサイト直島」(以下、BASN)とは、私たち福武財団と株式会社ベネッセホールディングスと、前述の3つの島を中心に約30年前から展開しているアート活動の総称です。

瀬戸内海とアート・建築―福武総一郎の思い

BASNの代表であり、福武財団の理事長を務める福武総一郎が、直島でアート活動を始めたのは、1987年のことです。その時のことを振り返り、福武はいつもBASNの活動の原点について語ります。

「瀬戸内の島々の多くには、近代化の波に洗われていない、かつて日本人が本来持っていた心のあり方や暮らし方、地

域の原風景が残っています。それらは、民家のたたずまいであり、人々の慣習であり、近所付き合いであり、自然の恵みを直接いただくという、ある面では自給自足のな生活でもあります。

また、瀬戸内海は、日本で最初の国立公園に認定されながら、日本の近代化や戦後の高度成長を支え、かつその負の遺産を背負わされた場所でもあります。直島や犬島には垂硫酸ガスを出す製錬所が建てられ、豊島には産業廃棄物の不法投棄が行われ、島々の自然と島民は痛めつけられました。

一方で、東京に代表される大都会は、人間が自然との営みから離れ、人間の欲望だけが残った、化け物のような場所ではないかと思っています。そこは、絶え間ない、刺激と興奮、緊張と享楽に溢れており、かつ人々をそれらの競争の渦の中に巻き込んでいく社会であります。



地中美術館 写真：藤塚光政

このような大都会の現状と、瀬戸内の人々の暮らし方を見ているうちに、近代化のベースになっている考え方である「破壊と創造」の文明、すなわち「在るものを壊し、新しいものを作り続け、肥大化していく文明」のあり方から、「在るものを活かし、無いものを創っていく文明」に転換していかなければならないと強く考えるようになりました。

このような現代社会における、大都会の抱える問題と瀬戸内のような地域の現状との矛盾を考えるなかで、瀬戸内の島々のような、近代化に汚染されていない日本の原風景が残る場所に、現代社会を批判するメッセージ性を持った、魅力的な現代美術を置いたら、地域が変わっていくのではないかという思いを強く抱き、それを実践してきました。「福武総一郎「瀬戸内海と私」(紹介パンフレット)より、一部抜粋。」

ベネッセアートサイト直島の展開

私たちBASNの活動は、以来30年、この福武が抱いた思いから二分もぶれること

なく、展開されてきました。

1992年に直島に「ベネッセハウスミュージアム」が完成。美しい自然の中に安藤忠雄氏の設計による美術館が存在し、そのアートに抱かれて休むという発想を持つホテルは、当時世界中どこにもなかったかと思えます。1997年には、直島の本村地区で「家プロジェクト」がスタート。古い民家を改修し、そこを舞台に、島民の方々と一流のアーティストが交流しながら、「アートを作り上げていく」という試みは、まさしく「在るものを活かし、無いものを創る」という考え方を具現化したものです。そして、2004年には「地中美術館」が開館します。地中に埋まっているにもかかわらず外光がふんだんに降り注ぐ安藤建築の中に、クロード・モネ、ウオルター・デ・マリア、ジェームズ・タレルの作品が、恒久設置されています。直島にはこのほかに、2009年に完成した、大竹伸朗氏が手がけた直島銭湯「I♥湯(アイ・ラブ・ユ)」や、2010年完成の「李禹煥美術館」などがあります。

そして、こうした直島での取り組みは、2008年



犬島精錬所美術館

写真：阿野太一

最後に申し上げておきたいことは、私たちの活動は、観光とは一線を画するものであるということです。私たちは、まず、



豊島美術館

写真：鈴木研一

お年寄りの笑顔あふれる島に

から、瀬戸内海の他の島に展開していきます。同年、犬島に「犬島精錬所美術館」が完成。1900年初頭に10年間ほどしか稼働せず、その後廃墟として放置されていた銅の製錬所を美術館としてよみがえらせました。犬島では、さらに2010年から犬島「家プロジェクト」を展開。近年では、自給自足的な営みや循環型社会など、「新しい暮らし方」への提言をテーマとした「犬島くらしの植物園」も展開しています。

さらに、同じ2010年には、豊島に「豊島美術館」が開館しました。美しい瀬戸内海と豊稜の稲作の棚田に囲まれた敷地に建つ美術館です。また、豊島では、「心臓音のアーカイブ」「豊島横尾館」など、多くの美術施設が展開されています。



写真：濱田英明

瀬戸内の美しい自然景観の中に地域の人と協力しながらアート作品を作ってきました。そして、アーティストが去ったあと、も島のお年寄りの方々

が、来島者の方に作品や島の歴史を語り、道案内をし、そこからたくさん笑顔が見られるようになりました。その笑顔に魅了されて繰り返し訪れる人が増え、その結果地元の美味しいものをふるまう食事処が出来、古い民家を改修して宿泊できる場所を作るといった形で、お年寄りの方々が幸せに暮らすコミュニティが長い時間をかけて徐々に広がっています。

私たちBASNの活動目的は、この流れを通して、それぞれの島の個性と誇りを取り戻していくことです。その意味で、私たちの活動も長い年月を経てようやく今日の姿になっていることを、ぜひ瀬戸内に訪れて感じていただきたいと思います。そして、本当の幸せ、豊かさや、「Benesse(よく生きる)」とはどういうことかを感じとっていたら、きつかけにしてください。ぜひと考えています。